

読賣新聞

2010年(平成22年)

3月29日 月曜日

張るシート状ワクチン

阪大など 臨床試験 実用化に道

肌に張るだけで、痛みのないシート状のワクチンを大阪大とコスメデイ製薬(京都市)が開発し、28日、岡山市で開かれた日本薬学会で発表した。奈良県立医大で実施した臨床研究で7割以上の人の抗体価が増え

ることを確認。シート状ワクチンで人への試験まで進んだのは国内初で、大阪大の中川晋作・薬学研究科教授は「実用化に道筋がついた」としている。ジフテリアと破傷風の混合ワクチンで、長さ8センチ、

幅5センチの名刺サイズ。抗原を含むゲルを合成樹脂のシートに塗ってあり、皮下にある免疫関連の細胞へ届く。

昨年12月、20〜70歳代の健康な23人の上腕に丸1日張り、2か月後に血液中の免疫抗体を調べた。ジフテリアは18人、破傷風は17人で張る前より抗体価が上昇した。ただ、このシートは水に溶ける抗原しか使えない。インフルエンザなど不溶性のワクチン用には、微小な突起が多数ついたシートを開発中だという。